学　校　便　り　　塚磨

令和６年度　第３号　R6.4.30 三豊市立詫間小学校

授業参観・ＰＴＡ総会がありました

４月 20 日（土）。本年度最初の授業参観が行われました。１年生は、入学して最初の授業参観ということで、子どもたちも保護者の皆様もドキドキ・ワクワクの時間だったと思います。どのクラスの子どもたちも、いつもどおり、いや、いつも以上に張り切って学習をしていました。

授業参観の後は、体育館でＰＴＡ総会が開催されました。体育館に用意した絨毯がいっぱいになるほどの保護者の皆様に出席いただきました。

総会に先立って、本校の教職員の自己紹介がありました。総会では、昨年度の事業報告、会計決算報告、会計監査報告がされ承認されました。また、続いて新役員が決定され、本年度の事業計画案、会計予算案が審議され承認されました。

総会の後は、学級ＰＴＡがありました。学級役員様の進行で、自己紹介や担任の挨拶、話し合いが行われました。学級ＰＴＡが行われている間、子どもたちは体育館に集合し、ビデオ鑑賞をしました。

この日は、大浜地区・箱浦地区の保護者会も開催されました。保護者の皆様。本当にありがとうございました。

１年生を迎える会

４月 26 日（金）。朝の活動の時間に、全校の子どもたちが体育館に集合し、「１年生を迎える会」を行いました。１年生の入場を、上級生が音楽に合わせて手拍子で迎えました。その後、児童会役員の挨拶があり、ここで、２～５年生は終了となりました。

体育館には１年生と６年生が残り、「じゃんけん列車」や、「猛獣狩りに行こう」、「王様じゃんけん」のゲームをしました。優しいお兄さん、お姉さんと活動し、１年生はニコニコ笑顔いっぱいでした。６年生の皆さん。素敵な会をしてくれてありがとうございました。

運動会の期日変更について

運動会は、<u>１１月９日（土）の午前中</u>に開催することで調整を進めています。度重なる変更で、ご迷惑をおかけしております。また、運動会の変更に伴い、２学期以降の授業参観や学習発表会についても変更が生じます。５月７日のＰＴＡ合同委員会後に、保護者の皆様にお知らせいたします。

私の勤務した学校　その２

（高松市立松島小学校　平成２年４月～平成６年３月）

教員１年目は、体育ばかり教える「体育専科」として、『学級担任をしたい、したい！』と思いながら過ごしていました。翌年、念願かなって、しかも６年生の担任をさせていただきました。次の年は５年、そして６年と、卒業学年を２回も担任させていただきました。

あれほどあこがれた学級担任でしたが、いざやってみると大変でした。学級の事務はすごく多くて、しかも、今のように「働き方改革」なんて言葉さえなかった時代です。テレビのコマーシャルでは、栄養ドリンクの「24 時間戦えますか？」のフレーズが流れていました。教員としての経験が浅いわけですから、他の教員と比べても仕事ができない、時間がかかります。とにかく忙しい、仕事に追われる、休みがない、その上、子どものトラブルを解決できない、保護者から苦情が続くという日々を過ごしていました。それでも担任する子どもたちのためにと、私なりに一生懸命にがんばりました。気付けば、大見小学校に赴任して４年の月日が流れていました。その４年間に「天国から届いた手紙」（真鍋校長の独り言Ｒ３―４）のような出来事もあったのです。

そして、今度は、縁もゆかりもない「高松市の中心部（旧市内）」の学校に転勤することになったのです。その学校は、現在は統合されて高松第一小学校になっていますが、当時は「高松市立松島小学校」でした。今の詫間小学校より児童数が 200～300 人くらい多い学校で、各学年３クラスか４クラスありました。琴電の松島二丁目の駅の近くにある学校で、隣は、高松商業高校、アーケード街までは、歩いて数分の所にある学校でした。

私が、三豊郡（当時）の小さな学校から高松市の中心部の大きな学校に転勤したのには、複雑な理由があるのですが、ごく簡単に言えば、「今まで経験していなかった場所で、一からやり直したかった。」という理由からです。同じ香川県でも、高松市と三豊郡では大違い。言葉だって、よく似ているようで、かなり違います。こちらでは、語尾に「な」「きん」がつくのに対し、高松では「の」「けん」です。こちらでは、「た・か・ま・つ」と、全て同じ強さで言いますが、高松では、「た・か・**ま**・つ」と「ま」を強く言います。言葉だけではありません。これまで４年間経験してきて、教員の仕事についてはかなり慣れてきていたと思っていたのですが、これまでの４年間は何だったの？と思うほど、学校のシステムに違いがありました。何より戸惑ったのは、それまでは、学年の担任は１人か２人で、多くても２人で相談して決めていたことが、５～６人の学年団で全て動く（現在の詫間小学校を一回り大きくしたように）ということでした。学校に行くのにも、自動車ではなくて自転車。子どもたちの通学路を、自転車を押して子どもたちと一緒に歩いて登校したことも多くありました。

実は、この戸惑いが、私にとっては「新鮮でウキウキすること」になりました。分からないことが、どんどん分かっていく楽しさ、それまでの４年間に仕事で学んだことが、実は、無駄なことではなく場所やシステムが変わっても通用するのだという実感、多くの教職員がいる中で、今までには出会ったこともないような考え方や子どもとの接し方をする先輩教員と知り合えたこと等、戸惑いは、いつの間にか「新たな発見」へと変わっていったのです。

当時の松島小学校は、生徒指導上、かなり大変な小学校でした。教室のガラスは、毎日のように割れていく、深夜に、ライオン通りのゲームセンターにいる小学生を家に連れて帰る、クラスマッチでバスケットやサッカーをしていると殴り合いのけんかになるなど…。でも、毎日が必死で、真剣で、それが大変だというよりは「仕事のやりがい」のようにすら思えて、私にとっては大げさですが「私自身の再生のきっかけ」となったのだと思います。

そんな松島小学校での１年間が終わろうとした頃、私は自分の不注意で顔に大やけどを負うことになってしまいます。当時は、まだ、学校に「焼却炉」（ゴミ焼き場）という物がありました。学校の運動場の片隅でゴミを燃やしていたのです。私は、「少しだから大丈夫」と油断し、油性ペンキの余った物を焼却炉の中に入れてしまったのです。そして、火を付けた瞬間、焼却炉から大きな炎が上がり、ちょうど、焼却炉の中をのぞき込んでいた私の顔に炎が直撃したのです。